

関係道府県による半島振興計画の 進捗状況の評価

国土交通省 国土政策局
平成25年6月21日

関係道府県による半島振興計画の進捗状況の評価の概要

- ◆ 実施時期：平成25年4月
- ◆ 対象：半島振興対策実施地域を有する22道府県
- ◆ 評価方法の概要：

関係道府県が、半島振興計画の計画項目毎に、
計画作成時点(平成17年以降)の半島振興計画の記載事項の進捗状況をどの
ように評価できるか

【評価の方法】

計画の進捗状況を以下に示す3段階で評価。(選択式)

ア)各種取組が順調に進捗し、状況が改善したことで計画に記載した事項がほぼ達成された。

イ)各種取組は進捗し、状況は改善しているが、計画事項に達成に向けた課題は依然として多い。

ウ)各種取組は行われているものの、状況の改善はあまり見られない。

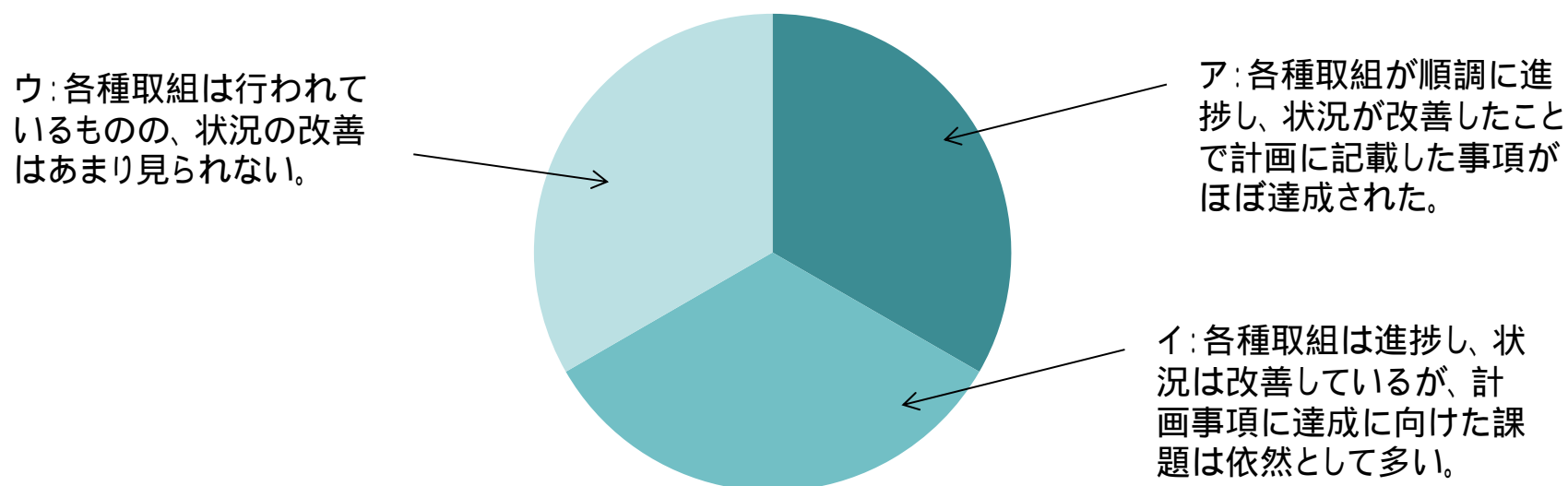
aで選択した評価の背景について具体的に記載。(記述式)

について回答。また、

現時点において、半島地域において残されている課題や平成17年以降に重要度を増している課題は何か

についても併せて回答。

各計画項目における進捗状況の評価の見方について



1. 進捗状況

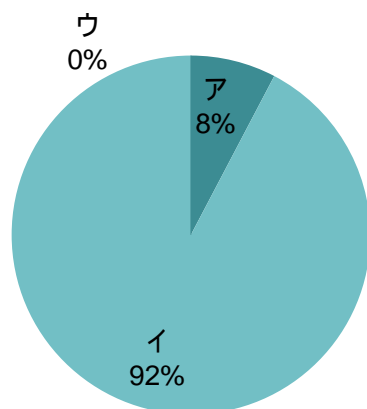
半島振興計画の進捗状況の評価(上記の3段階評価)の評価の背景として、各道府県が具体的に記述した内容を取りまとめた。

2. 残された課題や新たに生じている課題

これまで実施してきた半島振興計画の各計画項目に関し、現時点でも残されている課題、計画作成時には想定されていなかった新たな課題として、各道府県が記述した内容を取りまとめた。

(1) 基幹的な道路、港湾、空港等の交通施設及び通信施設の整備に関する事項

道路の整備



1. 進捗状況

■ 道路整備は一定程度進捗しているが、なお課題は多く残されている

- 半島循環道路に指定されている国道の整備は進捗し、改良率は86% (H17年78%)、舗装率は75% (H17年68%)と計画策定時と比較して改善している。また、地域高規格道路である下北半島縦貫道路も全体の約3分の1が供用を開始している。一方で、計画に掲げている中心都市のむつ市の市街地への「1時間交通圏の形成」は未だ実現しておらず、また、むつ市から県庁所在地へのアクセスは未だ2時間以上を要している。本地域全体の中核都市へのアクセスの改善が重要であることから、引き続き半島循環道路及び下北縦貫道路の早期整備を推進する必要がある。(下北地域)
- 半島振興計画に掲げた主要地方道男鹿半島線の船川・脇本間の4車線化の整備、戸賀地内の急坂の解消は完了し、屈曲部、急坂、狭隘箇所についても計画策定時よりも進捗したが、未だ解消されていない箇所を残している。また、主要地方道男鹿琴丘線の百川バイパス及び県道弘戸箱井線の角間崎バイパスの整備は継続中である。さらに、半島振興計画に記載している高規格幹線道路ICに概ね30分以内、最寄空港に概ね80分以内に到着する道路網の整備という目標、中心市と男鹿温泉郷を概ね60分、域内生活圏を30分で結ぶという目標がいずれも達成されていないなど未だ残された課題は多い。(男鹿地域)
- 高規格道路網の整備については、一部区間において、供用の開始や計画段階評価が完了するなど状況は改善しているものの、未だミッシングリンクの解消には至っていない。また、主要国県道や高規格道路へのアクセス道路の整備については着実に進んでいるものの、生活や地域の産業を支える主要地方道や一般県道については、急峻な地形的条件等から整備が十分に進展しているとは言えない。結果として、半島振興計画に掲げている半島内の主要都市間をどこからでも概ね3時間以内に到達できるようにするという目標の実現には至っていない。(紀伊地域(三重県))
- 半島振興計画策定時に地域高規格道路の計画路線であった五條新宮道路の一部が供用開始されるなど、進展があった。一方で、県管理道路については、特に内陸部の路線に未改良区間が多く残されているなど整備が遅れている状況。半島振興計画に掲げている「半島3時間交通網の形成」の実現のためには、なお課題を残している。(紀伊地域(和歌山県))
- 半島地域内外をつなぐ地域高規格道路である島原道路については、一部区間で供用を開始するなど進捗があった。また、半島地域内交通のネットワークの充実のために欠かせない国道57号については、国道57号森山拡幅事業のうち尾崎交差点から長野交差点の4車線化の整備は進んだが、尾崎交差点から雲仙市愛野町までの区間が残されており、アクセス改善は限定的なものである。島原半島地域において、半島振興計画に掲げる「県内2時間交通圏」の実現するためには、引き続き道路の整備が必要である。(島原地域(長崎県))

(1) 基幹的な道路、港湾、空港等の交通施設及び通信施設の整備に関する事項

2. 残された課題や新たに生じている課題

■ 道路改良率が低い等、半島地域外に比べ依然として残されている整備水準の格差

- 山間部や沿岸部など急峻で狭隘な地形があり、道路整備の推進が容易でない地域が残されている。(伊豆中南部地域)
- 半島循環道路等に指定された区間においては、その他の地域と比較して、道路改良率の増加の程度が低い傾向にある。地形条件が厳しいこと等が影響していると考えられる。(島原地域)
- 道路の改良は進んでいるが、半島内の一般国道連続雨量規制区間延長は、県内の他地域と比較して長い。災害に強い道路網を整備し、住民の安全・安心の確保のためにも、引き続き半島内の道路整備を行うことが必要である。(能登地域(富山県))

■ 東日本大震災を踏まえ、より明確になった災害発生時における幹線道路のリダンダンシー確保

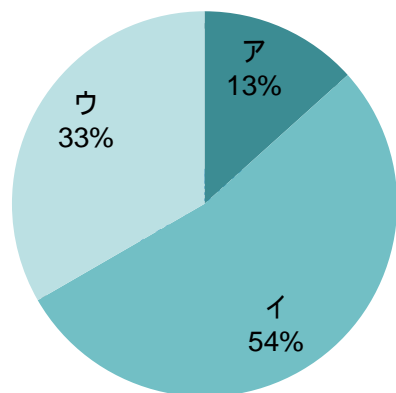
- 南海トラフ巨大地震による津波被害など自然災害の脅威は今後一層深刻化することが予測されている中、急峻な地形で平地に恵まれないことから主要都市間を結ぶ唯一の幹線道路が海岸沿いに位置するという現況を考えると、津波等による甚大な災害が発生した際のリダンダンシーの確保として、幹線道路等の整備、ミッシングリンクの解消が必要である。(紀伊地域(三重県))
- 地震・津波、風水害等の災害に備え、半島地域の孤立化を防止するとともに、迅速な救援活動を可能とするためにも、高規格幹線道路のミッシングリンクの解消や車線増設等を進めるとともに、道路が寸断された場合の迂回道路を整備するなど、多重的な道路網の整備が不可欠である。(紀伊地域(和歌山県))

■ 原子力災害に備えた避難ルートの設定等への対応

- 半島地域内の多くの路線が原子力災害に備えた島根広域避難計画における避難ルートに設定されたことから、海岸部と平野部(特に山陰道、松江第五大橋道路との結節点)を連絡する県道・市町村道の拡幅・改良など、円滑な避難が可能となるような道路整備について今後検討する必要がある。(島根地域)
- 東日本大震災を踏まえ、玄海原発での事故を想定した緊急避難道路の検討及び整備が課題となっている。(北松浦地域)

(1) 基幹的な道路、港湾、空港等の交通施設及び通信施設の整備に関する事項

鉄道・バスの整備



1. 進捗状況

- 沿線市町村、関係事業者等が連携し地域鉄道や路線バスの運営について協議する場を設定するなど、公共交通の維持確保に向けた検討が進められている。
 - 地域鉄道である松浦鉄道の沿線自治体や関係交通機関からなる協議会を発足させ(H20.5)同鉄道の維持発展に向けた支援や必要な検討を行っている。(北松浦地域。同旨他3地域(島原、伊豆中南部、南房総))
 - 路線バスの確保対策として、県、市町村、交通事業者等の関係者が一体となった協議会を設置(H25.2)して、持続可能な地域公共交通を確保するための取組体制を構築した。(紀伊地域(奈良県))
- 高速化や増便などの利便性向上に向けた取組の成果は限定的である。
 - 地域の発展を担う重要路線であるJR参宮線、JR紀勢本線の高速化や増便等について、鉄道事業者に要請する等、輸送力強化に向けて取組を実施したが、改善できていない。(紀伊地域(三重県)。同旨他2地域(南房総・国東))

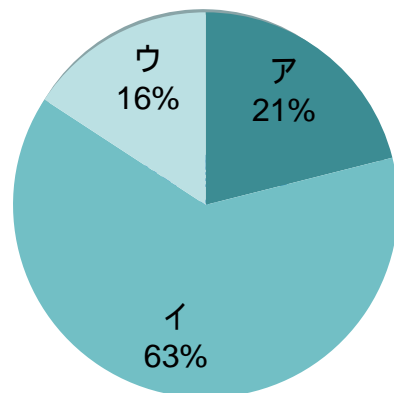
2. 残された課題や新たに生じている課題

- 他地域以上に人口減少が進行する状況下で、地域公共交通の維持確保の検討の重要度は上昇
 - 半島地域は、その他の地域以上に、人口減少等によるバス利用者の減少から路線数や運行本数が少なくなってきており、半島内外の格差は拡大していると考えられる。(紀伊地域(三重県))
 - 公共交通の利用者が少なくなっている中でも、高齢化の進行する半島地域においては、高齢者の移動手段を確保することは重要なことであり、鉄道やバスを含めた総合的な調整・支援について、今後も、関係者一体となって検討していく必要がある。(北松浦地域(長崎県))
- 新幹線の延伸等の効果を半島地域にも波及させるための地域一体となった検討
 - 九州新幹線西九州ルート(長崎ルート)の開業に向けて、その効果を島原半島へ波及させるためには、2次交通の軸となる島原鉄道の存続はもちろん、地域一体となって地域活性化に向けた取組方策を検討していくことが必要である。(島原地域(長崎県)。同旨1地域(渡島))

(1) 基幹的な道路、港湾、空港等の交通施設及び通信施設の整備に関する事項

港湾、航路の整備・充実

1. 進捗状況



■ 各港湾の特色や実情に応じた整備が進捗している。

- 和歌山下津港、文里港、新宮港における耐震強化岸壁の整備、湯浅広港における津波防波堤の整備についてはほぼ達成されたが、既存施設の機能強化については、今後も引き続き推進していく必要がある。(紀伊地域(和歌山県))
- 船川港金川地区の港湾緑地の整備が行われ、供用を開始した。一方で、物流機能の強化やふ頭用地の拡大等の促進が課題として残されている。(男鹿地域)
- 津松阪港において中部国際空港との海上アクセスに対応できる浮棧橋等の港湾施設を整備するとともに、鳥羽港佐田浜地区において、鳥羽マリンタウン21計画に基づき、地域観光に資する小型船だまりを整備した。(紀伊地域(三重県))

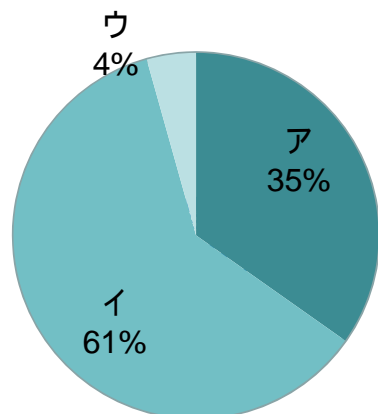
2. 残された課題や新たに生じている課題

■ 港湾施設の老朽化等に伴い新たな補修・改修が必要

- 新たな施設整備が図られ、流通機能は向上しているが、施設の老朽化による危険箇所が増加しているため施設を維持するための対策が今後求められる。(西彼杵地域)

(1) 基幹的な道路、港湾、空港等の交通施設及び通信施設の整備に関する事項

情報通信基盤の整備



1. 進捗状況

- 地上デジタル放送への対応はおおむね進捗している。
- 携帯電話の不感地帯の解消も概ね進捗しているが、課題が残っている地域もある。
 - 携帯電話等エリア整備事業(総務省)の活用により、多くの不感地帯を解消しているが、依然として不感地帯が残っている。(紀伊地域(奈良県))
- ブロードバンドの利用環境の整備も進捗している。
 - ブロードバンドサービスの世帯カバー率は、平成24年3月末現在で概ね100%であり、居住地域における整備が完了している。(能登地域(石川県))

2. 残された課題や新たに生じている課題

■ 光ファイバー等の通信技術への対応

- 条件不利地域である半島地域こそ情報通信網を活かして利便性を高めていく必要があるが、超高速ブロードバンドの整備環境については、半島内外で大きな隔りがある。住民生活の利便性を高める上でも、企業誘致に取り組んでいく上でも格差の解消は重要な課題である。(北松浦地域。同旨他4地域(紀伊(和歌山県)、西彼杵、宇土天草、能登(石川県))
- LTEやWi-Fiなどの高速移動通信サービスについて依然として格差が存在する。(能登地域(石川県)。同旨他3地域(伊豆中南部、江能倉橋島、北松浦))

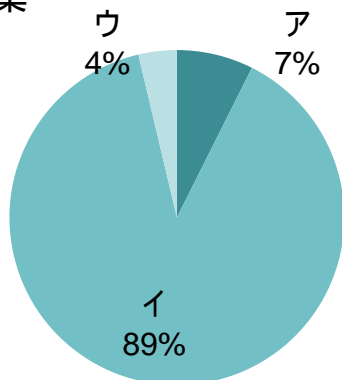
■ 災害に強い情報ネットワークの構築

- 災害リスクの高い半島地域において、大規模災害時に県民の医療情報、診察記録を連携保全するための広域情報ネットワークの整備が必要である。(紀伊地域(和歌山県))
- 災害に強い高度情報ネットワークの構築及び維持管理に対する支援が必要である。(紀伊地域(奈良県))

(2) 農林水産業、商工業その他の産業の振興及び観光の開発に関する事項

農林水産業の振興

農業

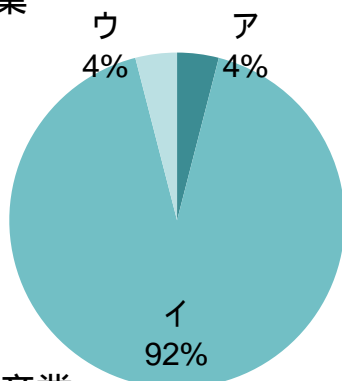


1. 進捗状況

■ 地域の実情に応じて生産基盤の整備が進捗している。

- ほ場整備、農道整備等の農業生産基盤整備のための事業が進められている。(津軽地域、南房総地域、能登地域、伊豆中南部地域、丹後地域、紀伊地域(三重県・和歌山県・奈良県)、江能倉橋島地域、室津大島地域)
- 幹線林道の整備、林内の路網整備、高性能林業機械等の整備など、森林整備の効率化と生産コスト低減に向けた取組が進んでいる。(紀伊地域(和歌山県))
- 水産基盤整備や漁港整備を行ったことにより、漁港漁場の環境が大きく改善された。(西彼杵地域)

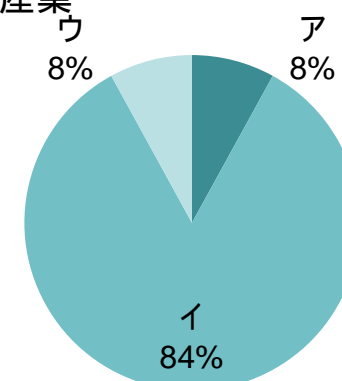
林業



■ 担い手育成やブランド化の推進といった農業の持続的な発展に向けた対策も展開されている。

- 意欲のある新規担い手の育成や掘り起こしや集落営農組織等への農地集積による農業経営体質の強化、地域住民主導での農地・農業用施設の保全活動などにより農村の活性化を図っている。(能登地域(富山県))
- 森林施業の集約化、路網の整備、人材の育成等による木材生産の低コスト化を進めるとともに、「三重の木」、「あかね材」のPRや公共建築物等の木造・木質化等を進め、県産材の利用拡大に取り組んでいる。(紀伊地域(三重県))
- 漁業経営の安定化を図るため、種苗放流を行うなど、水産資源の維持増大と漁場の保全に取り組んでいる。また、平成24年度に岬ガザミ(ワタリガニ)が地域団体商標に登録されるなど、地域ブランドの確立に向けた取組が進められている。(国東地域)

水産業



(2) 農林水産業、商工業その他の産業の振興及び観光の開発に関する事項

2. 残された課題や新たに生じている課題

■ 半島地域の地理的特性や社会情勢の変化が農林水産業にもたらす影響への対応

- 中山間地域を多く抱える半島地域は、狭小な農地が多いことから、農地の集約等が難しい状況。全国水準を上回る高齢化や後継者が不足しており、耕作放棄地などが多く見られる状況にある。(伊豆中南部地域、同旨他2地域(紀伊(奈良県)、江能倉橋島))
- 鳥獣害対策については、対策を講じた地域には成果が出ているものの、新たに被害地域が拡大するといった状況も見られており、今後も取組を強化していく必要がある。(紀伊地域(三重県))
- 農家の高齢化と後継者不足が進んでおり、新たな担い手の確保・育成がますます重要な課題となっている。(江能倉橋島地域)
- 半島地域は他地域と比べ林業経営体の減少が進んでいる状況にある。また、林業後継者の減少などにより、森林資源が十分に活用されないばかりか、必要な施業が行われなため、森林の持つ公益的機能が十分に発揮されず、荒廃が進んでいるといった事態も見られる。(能登地域(富山県))
- 漁港整備等により水産業の環境は改善されているものの、漁業者の高齢化に伴う後継者の不足といった問題が生じており、後継者育成が必要である。(西彼杵地域)

■ 半島地域が持つ消費地までの遠隔性に起因する流通コスト高への対応も引き続き必要

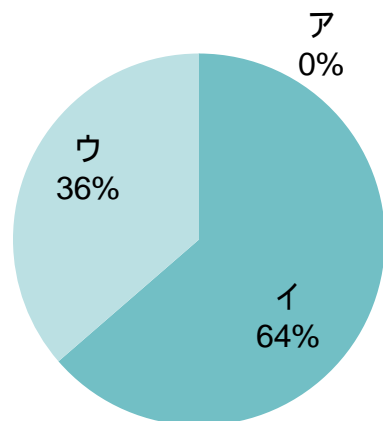
- 半島地域は、国土軸から離れているため、農林水産物の陸上輸送コストが他地域よりも高いという点は今なお残されており、引き続き農畜産物輸送の合理化など低コスト化を進めていく必要がある。(紀伊地域(和歌山県)、大隅地域、薩摩地域)
- 木材消費地に遠いという地理的不利な条件を踏まえると、林業事業体における高性能林業機械の導入や市場を経由せずに木材を消費地へ直送するなど、生産性の向上や流通の効率化を図る対策が引き続き必要である。(紀伊地域(和歌山県)、同旨他1地域(西彼杵))
- 漁獲物の運搬コストは、他地域より高いため、水産物の効率的な保管、運搬に取り組むとともに、水産加工品の付加価値の増大や流通ルートの拡大に取り組む必要がある。(北松浦地域)
- 今後とも、付加価値の高い市場ニーズにあった農産物の生産や農産物加工品などの商品開発等を通じてブランド力を高め、持続性のある農業経営を推進していく必要がある。(北松浦地域)

■ 地域の実態に応じた生産基盤の整備は引き続き必要

- 農地の基盤整備、森林整備のための路網整備の取組を一層推進する必要がある。(津軽地域、下北地域、紀伊地域(和歌山県)など)

(2) 農林水産業、商工業その他の産業の振興及び観光の開発に関する事項

商工業の振興



1. 進捗状況

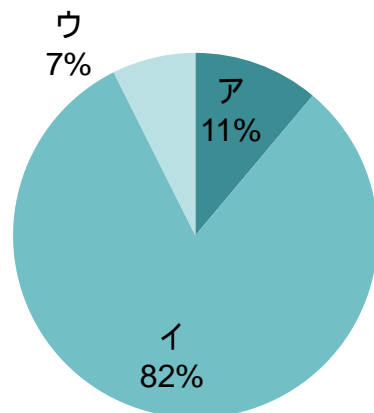
- **企業立地を促進している地域が多いが、その効果への評価は地域により異なる。**
 - 企業進出上、不利な条件を抱える半島地域での産業等の誘致を進めるため、地域資源を活かした企業の立地を促進するための補助制度を創設し企業誘致を進めてきたものの、現状は十分な成果に至っていない。このため、要件の緩和など補助制度を見直し、引き続き誘致に努めている。(紀伊地域(三重県))
 - 紀北地域においては、新たな企業用地の造成が完了し、また、京奈和自動車道の整備が行われたことに伴い、新規企業の立地が進んでいる。(紀伊地域(和歌山県))
- **既存企業の経営強化、地場産業の振興の取組が進められている。**
 - 地域資源や伝統技術を活用し、消費者のニーズに対応した魅力ある商品の開発や販路拡大に向けた支援を実施している。(能登地域(石川県)、宇土天草地域)
- **商店街の活性化を図るためのソフト事業への支援が進んでいる。**
 - 商店街の活性化を中心課題として、ハード整備事業、ソフト事業、空き店舗対策事業を継続して実施している。空き店舗の減少などにつながり成果が出ているが、客足の減少などは引き続き課題と成っている。(島原地域、同旨他7地域(男鹿、南房総、能登、紀伊、北松浦、国東、西彼杵))

2. 残された課題や新たに生じている課題

- **雇用の確保のため、企業立地環境の整備を行うとともに、新規企業の誘致、起業の促進等が引き続き重要**
 - 半島地域では、交通アクセスの悪さから、企業が立地しにくく、特に高速道路のインターチェンジからの時間距離の大きさに反比例して企業の立地意欲が減少する傾向がある。この傾向は近年拡大傾向にあり、道路網の整備と併せた企業誘致を引き続き行うことが必要である。(島原地域)
 - 雇用力のある企業の誘致に取り組むためには、今後も、周辺環境の整備(高速通信網、住宅環境)も含めて対策を進める必要がある。(北松浦地域)
- **地場・伝統産業では、販路の拡大や後継者の不足等が依然として課題**
 - 既存の販売先にとどまらず消費者ニーズを踏まえ新たな販路を開拓していくためにも、引き続き高度技術者の育成を図るとともに、後継者の確保・育成を進めていくことが必要である。(能登地域(石川県)、宇土天草地域)
- **高齢化の進行等の社会情勢の変化も踏まえた商業環境の整備が必要**
 - 地元商店の廃業等により、高齢化が進む半島地域では、高齢者が日常の買い物に困難を生じる事態も想定される。廃業となった商店の空き店舗に、ニーズを踏まえたサービスを提供する新たな事業者の開業を促進する等の方策も含め商業振興を図ることが必要である。(江能倉橋島地域)

(2) 農林水産業、商工業その他の産業の振興及び観光の開発に関する事項

観光の振興



1. 進捗状況

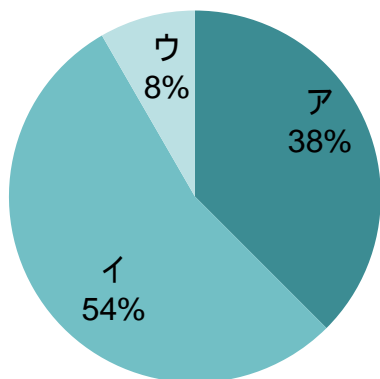
- 各半島において広域観光を推進するための体制整備が進んでいる。
 - 伊豆地域の広域的な滞在・周遊型観光を促進するための取組が進展しており、平成23年には、県、関係市町村、関係機関からなる伊豆半島ジオパーク推進協議会が設立されるなど、新たな取組が進行している。(伊豆中南部地域)
 - 島原半島観光連盟の組織強化が図られるなど広域観光の推進母体の充実が図られ、各種事業が展開している。(島原地域)
(他、能登地域(石川県)、丹後半島、島根地域、江能倉橋島地域、幡多地域、宇土天草地域)
- 地域の実情に応じた観光交流施設の整備が進捗している。
 - 道路ネットワークと連携した地域情報の発信・連携の場として、「道の駅」など施設の充実を図った結果、通年型の観光拠点施設としての役割を果たすようになった施設も生まれた。(南房総地域)

2. 残された課題や新たに生じている課題

- ジオパーク認定や半島周辺部の高速交通施設の整備による効果を半島に呼び込むため、広域的な観光振興の強化が必要
 - 北海道新幹線の開業による効果を渡島半島全体に波及させるため、地域全体が観光地としての魅力向上に取り組む必要性がある。さらには、青森や後志地域との連携を視野に入れた広域観光を進めることが必要である。(渡島地域)
- 半島の資源の魅力を発信するため多様な主体と連携した取組の推進が必要
 - 「ありのままの地域の生活や文化を体感したい」といった観光ニーズに対応し、半島の地域資源を有効利用するためには、観光従事者以外の多様な関係者が参画した観光地づくりの取組を進めることが必要である。(伊豆中南部地域)
 - 行政主導から市民協働による観光イベントの実施等を促進するため、観光ボランティアガイドの育成等を図る必要がある。(江能倉橋島地域)
- 旅行ニーズの多様化を受けて、多様なニーズを半島の特性とうまく結びつけて積極的に発信することが必要
 - 旅行形態が多様化する中で、例えばスローステイのニーズを地域の優れた資源(紀伊山地の霊場など)と結びつけて発信するなど、時代のニーズと半島の魅力的な資源を結びつける取組の強化が必要である。(紀伊地域(和歌山県))
 - 自然景観、温泉郷、食、伝統行事など、多様な旅行者のニーズに応えられる観光資源に恵まれていると考えるが、半島の地域資源の発信力の強化に向けた取組が必要と感じられる。(男鹿地域)

(3) 水資源の開発及び利用に関する事項

1. 進捗状況



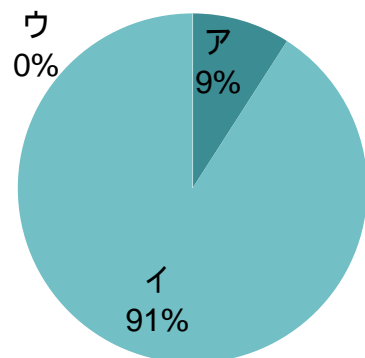
- 地域の実態に応じてダム整備等の水資源確保に向けた取組が進捗している。
 - 安定した水資源の確保を図るため、水道水の供給を目的とした切目川ダムの建設が進捗している。(紀伊地域(和歌山県)。同旨他5地域(紀伊(奈良県)、室津大島、幡多、北松浦、宇土天草)
- 上水道の拡張や簡易水道の整備等、水資源の利用に関する取組が進捗している。
 - 各河川の維持流量の確保を図りつつ、市町において上水道事業や簡易水道事業の整備などが進められている。(紀伊地域(三重県)。同旨他5地域(下北、能登(富山県)、国東、大隅、薩摩)
- 各地で水源地域保全を目的とした森林整備が行われている。
 - 良質な水資源の安定的な確保を図るため、水資源周辺部への植林の実施などを行っている。(男鹿地域、室津大島地域)

2. 残された課題や新たに生じている課題

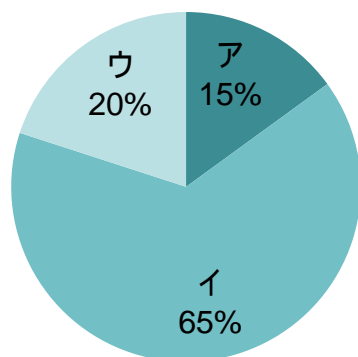
- 人口減少等の地域の変化に対応した水資源の利用のあり方を検討することが必要
 - 半島地域では、人口減少が進んでいることに伴い、給水人口や給水量も今後減少することになる。このような減少を前提にしつつ、老朽化施設の更新需要に対応するための施策を講じていかななくてはならない。(西彼杵地域、大隅地域、薩摩地域)

(4) 生活環境の整備に関する事項

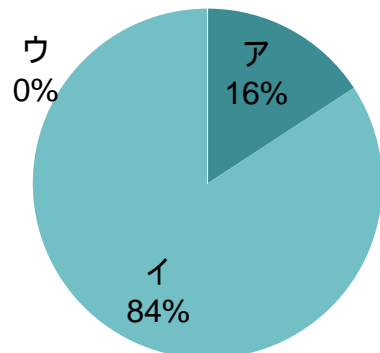
汚水処理施設



住宅関連対策



防災・消防・安全対策



1. 進捗状況

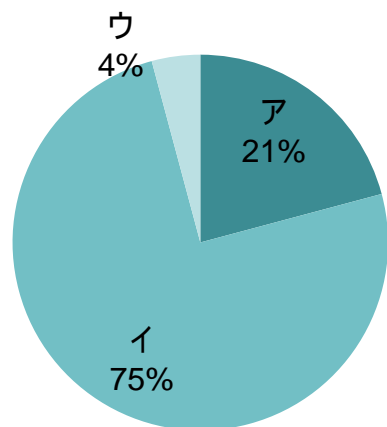
- **地域の実情に応じた計画的な汚水処理施設の整備が行われている。**
 - 地域の実情に応じて、公共下水道、集落排水施設、合併浄化槽の整備を行っている。(男鹿地域)
 - 紀の川中流域下水道が新たに供用開始するなど、下水道施設の整備は進んでいるが、整備水準は、全国水準と比べ著しく後れている状況にある。(紀伊地域(和歌山県))
- **良好な居住環境の確保、公園等の整備が進められている。**
 - 老朽化の進んだ公営住宅の建て替えに伴い、高齢者等に配慮した公営住宅の整備等が計画に即して進捗している。(室津大島地域)
- **ソフト面での防災対策も進められている。**
 - ハザードマップの整備、自主防災組織の育成強化が進められている。(能登地域、室津大島地域、男鹿地域)

2. 残された課題や新たに生じている課題

- **半島内外で引き続き存在する整備水準の格差**
 - 半島地域においては、下水道等の整備により汚水処理人口普及率は向上しているものの、他の地域に比べ、低い状況にある。今後も人口減少等の社会情勢の変化や半島地域における地形的制約等を踏まえ、効率的・経済的な整備手法を検討して行く必要がある。(紀伊地域(三重県))
- **半島地域の社会情勢の変化を踏まえた住環境整備が必要**
 - 定住人口の増加を図るため良質な住宅の供給の促進を引き続き図っていく必要がある。(島原地域)
 - 高齢化社会に対応した公営住宅の建設・改善を行うことが必要となっている。(国東地域)
- **過疎化・高齢化に対応した地域防災体制の検討**
 - 消防設備の更新・整備については、計画的に進められているが、防火水槽などの水利や消防団員の確保に関しては、半島地域外と比較して差がある状況にある。半島地域で今後、高齢化が進行することを考えると、消防団員をどのように確保していくかが課題として残されている。(室津大島地域)

(5) 高齢者の福祉その他の福祉の増進に関する事項

高齢者福祉



1. 進捗状況

■ 施設整備は進展している。

- 高齢者の居住サービス、施設整備については進んでおり、おおむねニーズに対応している状況である。(室津大島地域)

■ 地域の実情に応じ各種施策が進められている。

- 公共交通機関の便数等について不利な半島地域において、高齢者の社会活動への参加を促すため福祉交通機関(バス・タクシーなど)に対する助成を実施している。(島原地域)
- 地域包括支援センターを設置して、保険・医療・福祉に関する総合的な相談・支援を実施している。(江能倉橋島地域。同旨他2地域(島原、紀伊(三重県・和歌山県)))

2. 残された課題や新たに生じている課題

■ 高齢者が一層増加する中、施設利用等の福祉ニーズを充足しきれていない

- これまで整備を行い一定の成果をあげてきたが、都市部と比較して高齢化率が高まっており依然として待機者が存在していることから、引き続き施設整備やサービス提供の充実が必要である。(北松浦地域)
- 県内の他地域と比較して高い高齢化率である中、医療や介護関係の専門職の確保が難しい、介護事業サービス事業所の偏在があるといった課題がある。(伊豆中南部地域)

■ 都市部と比較して交通の不便さの程度が強い半島地域において、生活上の不便が問題化するおそれ

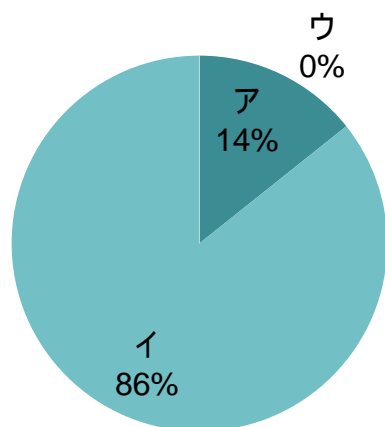
- コミュニティバス等の移動手段の確保、移動販売等の買い物支援等を今後検討する必要がある。(紀伊地域(和歌山県))
- 各種事業を実施しても、高齢者の移動手段が十分に確保できず、参加に繋がらないことから、地域に出向く形態をとる等の工夫をしつつ外出支援事業等、介護予防につながる事業などを進める必要がある。(北松浦地域)

■ 近い将来顕在化することが予見される高齢化が一人暮らし高齢者の増加への対応

- 地域の多種多様なニーズに対して行政ですべて対応できない状況になりつつあり、高齢者等の見守りをはじめとする地域づくりの新たな担い手として、行政以外の地域住民やNPO団体等の活動を支援することが必要である。(島原地域)

(5) 高齢者の福祉その他の福祉の増進に関する事項に関する事項

児童福祉その他の福祉



1. 進捗状況

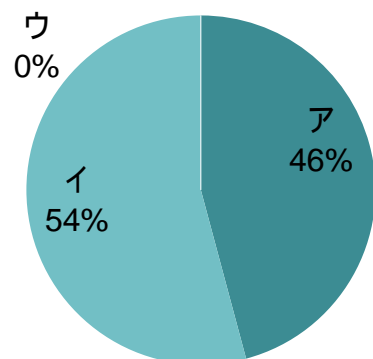
- 多様な保育需要に対応した取組が進んでいる。
 - 延長保育や一時保育の実施、地域子育て支援センターの設置など、児童福祉サービスの充実を図っている。(島原地域、同旨他6地域(紀伊(和歌山県)、室津大島、北松浦、西彼杵、宇土天草、国東))
- 医師の確保、救急医療の体制整備に向けて取組は進んでいるが、課題は残されている。
 - 半島地域の医療機関に対して補助を行うなど、医療供給体制の強化を図ってきたが、依然として無医地区が存在するなど、医師・看護師などの医療従事者の確保が課題となっている。(宇土天草地域、同旨他3地域(能登(石川県)、伊豆中南部、紀伊(奈良県))

2. 残された課題や新たに生じている課題

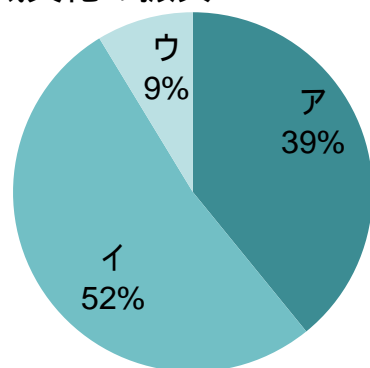
- 少子化の影響により生じる保育機会の減少がもたらす影響への懸念
 - 子どもが減少してきている地域では、保育所の統廃合等により、身近な地域で保育所を利用できない状況が発生している。(紀伊地域(三重県)、同旨他1地域(伊豆中南部))
 - 児童数が減少する地域においては、将来的に学童保育などの子育て支援サービスの存続が危ぶまれる状況である。(西彼杵地域、同旨他1地域(紀伊(三重県)))
- 専門性の高い福祉需要が充足できていない状況
 - 少子化が進む半島地域においては、専門性の高い子育て支援施設(例:病児保育施設・児童発達支援センター)等を独自に設置することができず、近隣都市の施設を利用しなければならない状況もある。(北松浦地域、同旨他1地域(西彼杵))
 - 県内の他地域と比較し、障害を持つ方に対する相談支援、就労支援、障害福祉サービスの基盤が不足している。(伊豆中南部地域)
- 医師の確保、救急医療の体制整備において引き続き残されている格差
 - 地域内には、3次救急を担う救急救命センターはなく、天候が良好な昼間ではドクターヘリにより最寄りの救急救命センターへの搬送が可能であるが、夜間や悪天候時には救急車による搬送となる状況にあり、引き続き救急救命センターへのアクセスに課題を抱えている。(救急車搬送患者の医療機関収容までの時間:全県34.7分、半島地域を含む賀茂医療圏:45.4分(2002)) (伊豆中南部地域)

(6) 教育及び文化の振興に関する事項

教育の振興



地域文化の振興



1. 進捗状況

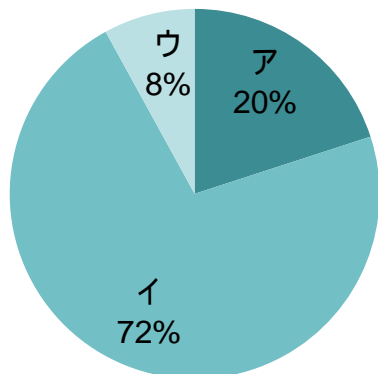
- 各地域の実態に応じて教育・文化施設等の整備が行われている。
 - 小中学校の校舎・体育館等の構造体の耐震化が進められた。(江能倉橋島地域、同旨他5地域(渡島、能登(富山県)、室津大島、北松浦、島原) 一方で、天井や照明器具等の非構造部材の耐震対策についても、一層推進を図る必要がある。(江能倉橋島地域)
- 教育の一環として半島の活性化を担う人材の育成が進められている。
 - 伊豆半島ジオパーク構想を推進する中で、高等学校で、地域の小中学生を対象としたジオツアーの企画・運営を通じて、観光地としての魅力や可能性を探る取組を行っている。(伊豆中南部地域)
 - 熊野古道をはじめとする三重の文化や自然などについて理解を深めるため、中学生向けの教材を発行し、郷土学習の取組を進めている。(紀伊地域(三重県))
- 各地域の実態に応じて歴史的文化遺産の保存や継承が行われている。
 - 遺跡の保存、指定文化財の修繕等については進捗している(渡島地域、同旨8地域(積丹、下北、男鹿、南房総、室津大島、島原、西彼杵、国東) 一方で、歴史的文化遺産を観光資源としての利用する方法については、今後の課題となっている。(渡島地域)

2. 残された課題や新たに生じている課題

- 少子化の進行に伴う学校の活性化と適正規模・配置の推進
 - 半島地域は、他地域と比較し、今後さらに少子化が進行することから、地域の声を聞きながら適正規模・配置を検討していく必要がある。この際、再編・統合に伴う遠距離通学者が増加することへの対応も考える必要がある。(宇土天草地域、同旨他3地域(西彼杵、北松浦、紀伊(三重県))
- 歴史的文化遺産の観光資源としての活用方策の検討
 - 遺跡の整備等は進んでいるが、北陸新幹線の開業を契機として半島地域への来訪者を増加させるために、半島地域の豊富な文化財をどのように観光資源として活用していくのか検討が必要である。(能登地域(石川県)、同旨他1地域(渡島))
- 人口減少に伴う半島固有の文化伝承に必要な担い手の不足
 - 半島地域では、地域特有の伝統行事などが数多く残されているが、少子高齢化が加速して後継者不足が顕著であり、担い手育成が課題となっている。(北松浦地域、同旨他6地域(渡島、男鹿、島根、室津大島、宇土天草、国東))

(7) 国内及び国外の地域との交流の促進に関する事項

1. 進捗状況



■ 近接する半島地域同士の連携が進んでいる。

- 渡島、津軽、下北、男鹿の4つの半島地域のまちづくり団体が連携交流し、4半島に共通する歴史的人物「菅江真澄」を軸としたツアーを試行するなど、青函圏交流・連携の推進に向けた取組が活発になってきている。(渡島地域)
- 有明海を挟んで隣接している島原・天草の連携を進めるべく、雲仙天草観光圏の認定(平成21年度)以降、転地滞在型・交流型の観光圏を目指し、修学旅行誘致や旅行商品造成による誘客促進などが展開されている。また、本年5月に有明・島原地域観光連携会議が発足し、両地域の観光面の連携を推進している。(島原地域)

■ 半島の豊かな自然や地域文化等を活用した都市と半島との交流の取組は各地で進められている。

- 海や山などの自然や地域文化などを活用した体験型教育旅行の受入等を進めており、県内の他地域と比較して取組は進んでいる。(室津大島地域)
- 滞在・交流拠点の整備、体験型教育旅行受入地域協議会としての取組、定住促進のための空き家情報の提供などにより、都市住民の余暇活動や移住・定住等のための環境整備を図っている。(伊豆中南部地域)

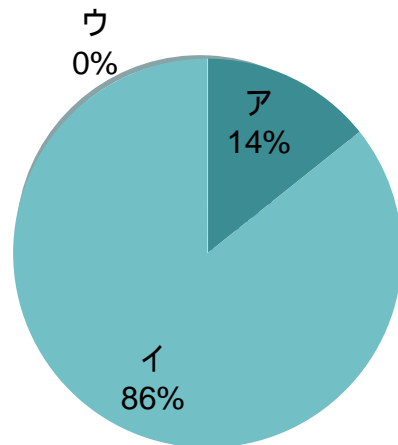
■ 姉妹都市協定の締結など、国外の地域との連携も進められている。

2. 残された課題や新たに生じている課題

■ 人口減少局面を迎え、交流人口の増加による地域活力の増強が重要であり、今後も取組の強化が必要

- 都市住民の間で田舎暮らしを求める指向や、都市と農村の2地域居住を行うなど、地方との接点を求めるニーズは高まっている。一方で、地域間競争もあるため、半島地域の魅力や個性を明確に打ち出しながら差別化を図っていくことが必要である。(能登地域(富山県)、他4地域(男鹿、南房総、伊豆中南部、室津大島))
- 島原半島ジオパークの認定等、半島の特徴ある資源を高く評価する機会に恵まれ、これを契機に半島一体という意識、連帯の意識が醸成されつつあるので、今後も地域内で連携を深め、資源のブラッシュアップするなど取組を充実させていくことにより、他地域にはない交流を進めていくことが必要である。(島原地域)
- 地域間交流を促進するNPOや民間団体が活躍できるような体制づくりが必要である。(国東地域)

1. 進捗状況



■ 各地域の実態に応じて国土保全施設等の整備が行われている。

- 砂防・地すべり・急傾斜地崩壊対策等の土砂災害対策については、災害時要支援関連施設等が立地する箇所の整備を優先的に進めている。(能登地域(石川県)。他同旨3地域(室津大島、北松浦、宇土天草))
- 河川改修、河川総合開発等の治水対策が進められている。(能登地域、積丹地域、男鹿地域、南房総地域、紀伊地域(三重県)、国東半島、大隅地域、薩摩地域)
- 三重県地域防災計画に、防災拠点として指定されている港湾について、海上からの緊急輸送など円滑な災害支援・救助活動を可能とするための耐震強化岸壁の整備を完了した。(紀伊地域(三重県))

■ 災害時の通信確保の強化に向けた取組が進捗している。

- 衛星通信系防災情報システムが整備され防災体制を強化している(丹後地域)

2. 残された課題や新たに生じている課題

■ 近年発生した地震、大雨、津波等の災害も踏まえ引き続き防災対策を進めることが必要

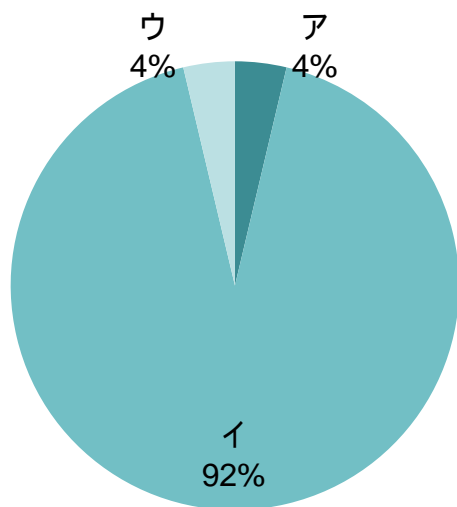
- 半島地域ではリダンダンシーが確保されていない箇所が多く、広域に被害を及ぼす大規模災害が発生した場合、災害応急対策、避難等に支障が出るおそれがあるため、対策が必要である。(男鹿地域、紀伊地域(三重県、奈良県、和歌山県)、北松浦地域)
- 半島地域では、交番や駐在所と警察署との間の距離が長く、他の地域と比べリアルタイムな情報の交換や報告が困難という状況にある。これを踏まえ、災害時も見据え、イントラネットの整備等を進める必要があると認識しており、今後、県において整備を進めることとしている。(紀伊地域(和歌山県))

■ ソフト面での対策の重要度が上昇

- 南海トラフ巨大地震の想定を踏まえると、紀伊半島は短時間で津波の到達が予想されることから、住民の生命を守るため、避難を中心としたソフト対策が課題となっている。(紀伊地域(和歌山県))
- 自主防災組織の一層の強化が必要である。(室津大島地域)

半島振興計画全般についての評価

- ほぼすべての道府県において、計画は進捗しているものの、計画事項の達成に向けては依然として課題があると回答



今後も半島振興計画による振興策の実施が必要か

- すべての道府県が今後とも必要と回答

これまで実施している計画項目の分野に加えて
今後振興が必要と考える事項

防災・減災の推進

- ◆ 集落支援・コミュニティの活性化
- ◆ NPO活動及びボランティア活動の推進
- ◆ 交流・観光事業等のソフト事業の実施
- ◆ 医療の確保
- ◆ 環境の保全、良好な景観の保全及び創造

など